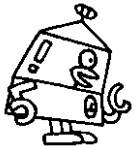


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /  
植物の花と実 / 理解シート

## イネにも、花がさくの



もちろんさくよ。葉の間からほが出てきた晴れた日の  
昼ごろ、ほを観察すると白いおしべが見えるよ。

### イネの花は、葉の間から出たほ

発芽したイネが成長すると、葉の間からほが出てきます。晴れた日の午前 11～12 時ごろ、ほをよく観察すると、白いものがひらひら見えることがあります。

ほはイネの花で、白いものはおしべです。イネの花には花びらやがくはなく、2まいのから（えいという）につつまれています。6本のおしべと、1本のめしべがあり、めしべの先は2またに分かれていて、柱頭<sup>ちゅうとう</sup>は鳥の羽のようになっています。

### 風が花粉を運ぶイネの花は、じみで目立たない

イネの花のからが開くと、おしべが風にゆれて花粉が飛び、その花粉がめしべの柱頭につき（<sup>じゅふん</sup>受粉）、やがて、からがとじてしまいます。そして、めしべの根もとの子ぼうがふくらんできて、実（米）ができます。からにつつまれた米は、もみとよばれ、もみがらをはいだものが、ご飯として食べられている米になります。

もみを水をはった土にまくと、<sup>はっが</sup>発芽してきて、イネが育っていきます。

虫が花粉を運ぶ花は、目立つ色の花びらや、におい、みつなどももっていますが、風が花粉を運ぶ花は、虫をよびよせる必要がないので、花びらがなく目立ちません。

